

DEVNETプロジェクト

アンテックが対象に

海外販売
センサー
火災

陶芸用電子機器など製造のアンテック(瀬戸内市邑久町)は、国連開発計画(UNDP)の執行機構・国際情報発展網協会(DEVNET、本部・ローマ)

が実施する「国際合作

プロジェクト」の対象企業に選ばれた。独自開発の火災センサーを、DEVNETと共に海外へ売り込んでいく。

プロジェクトは、中小企業が持つ環境・救

援分野の優れた技術や製品を、国際的に普及させることなどが目的。

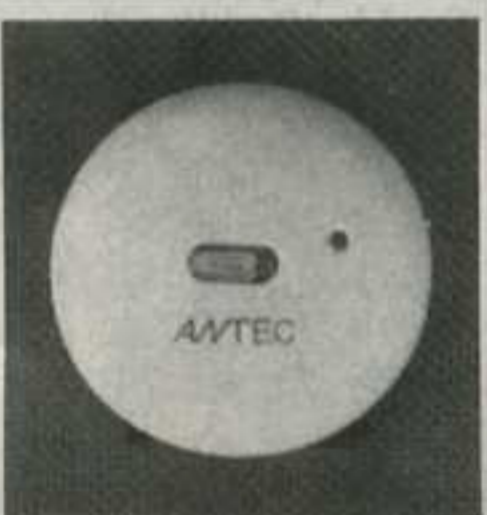
DEVNETは、国際展示会の出展をはじめ、各国の政府や企業への販路開拓を支援する。

国内では約四十社が選ばれており、岡山県内では初めて。

アンテックの火災センサーは、煙や熱を感じる。

アンテックが開発した火災

センサー



アンテックが開発した火災センサー

DEVNETが発行した国際合作プロジェクト証



知する通常製品と異なり、炎に含まれる紫外線に反応するのが特長。ライターなどの小さな炎も感知できるため、火災の早期発見につながるという。

同社の支援には、中国・上海市にあるDEVNET事務局が主体的にあたる予定。

末石建二社長は一機能には自信があるが、消防法で認められていない製品のため、国内での販売には限界がある。海外に活路を見いだしたいとしている。

(三木良一)